

問題一

- 問一 A 醸成 B 埋没 C 屈辱 D 尋問(訊問) E 名譽

問二 同じ共同体に属し、互いの同質性を想定しうること。(二四字)

問三 所属集団を超えようとする人生を、書簡を通して追体験するから。(三〇字)

問四 人間であることを基準に自律性や身体の尊厳を重視する思考が、集団間の差異を超えて普遍化していくから。(四九字)

問題二

問い一 近年の人々による翻訳の弊害は多岐にわたっていて一つ一つは数え挙げられないが、とりあえず一つ二つの顕著な例を挙げてみると、

問い二 原文を書いた欧米人が意図していない漢文の語句で翻訳するから。(三〇字)

問い三 翻訳者は原文の精神をよく理解し、意味合いまで日本語で忠実に伝えるように留意するべきであるということ。(五〇字)

問題三

加害者と被害者が関係を修復する過程である赦しにおいて、最も望ましい形態は、集団でなく個人である加害者を被害者個人が赦すというものだ。この時被害者は被害者意識を癒し前向きな感情を獲得し、加害者も救済される機会を得る。だが赦しは個の誠実さと良心による自発的行為であるため強制はできず、大きな困難を伴う。そしてこの困難ゆえにこそ赦しは最も賞賛され、紛争後の平和と正義に向かう最後の希望とみなされるのである。(二〇〇字)